

2018 平成30年

主なできごと

2月2日	1市2町へ芋玉贈呈
2月6日	冬期地区別懇談会(6~9日)
2月20日	JAバンク全国大会功労者表彰
3月13日	北海道農業協同組合功労者表彰
3月21日	カーリング女子「LS北見」にJA加工品を贈呈
3月27日	「新婚さんの集い」を初開催
4月10日	第15回JAきたみらい通常総代会
5月14日	小泉進次郎氏が訓子府選果場を視察
7月3日	新規就農者激励状授与式・交流研修会(19人就農)
7月5日	玉ねぎ冷蔵貯蔵施設 修祓式
7月10日	夏期地区別懇談会(10~13日)
7月12日	第60回オホーツクJA野球大会で優勝
7月21日	第15回JAきたみらい乳牛共進会
8月10日	役員作況調査
8月25日	第11回きたみらい農業体験&見て歩きツアー
9月6日	胆振東部地震が発生
10月9日	JAみらいサミット特産品フェア
11月13日	第29回JA北海道大会
12月1日	コンプライアンス研修会
12月4日	第10回JAみらいサミット(4~5日)
12月26日	1市2町へ鏡餅贈呈



カーリング女子「LS北見」に
JA加工品を贈呈



ハロウィンフェスティバル2018



「OKETO GREEN FESTIVAL」 ケータリング



JA女性部 東日本大震災被災地を訪問

4月5日 設立70周年記念式典・・・端野町農民同盟 “七十年のあゆみ 挑戦”を発刊

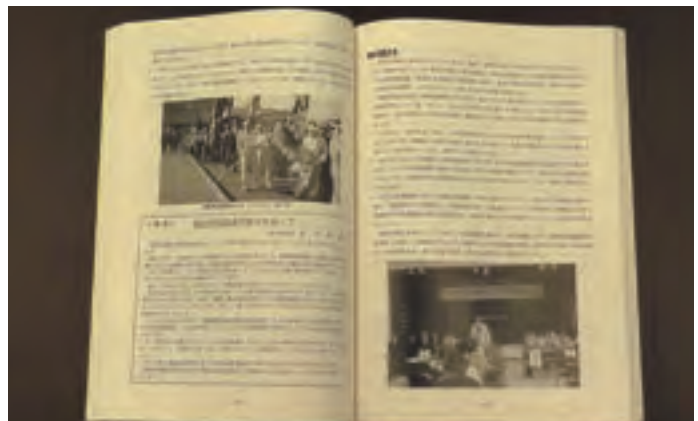
北見市内のホテル黒部で「端野町農民同盟設立70周年記念式典」を開催し、約50人が参加した。

開会で委員長の土山 毅さんが設立70周年にあたり、「端野町農民同盟は戦後混乱期中、農民社会の民主化や経済的地位の向上のために農民運動が始まりである。これからも、自由と平和を目指し、豊かな農業・農村社会を明るくする運動に「挑戦」して行きます」と力強く挨拶された。

端野町農民同盟は昭和23年3月に（故）天谷平信初代委員長のもと、当時の端野村端野にあった「豊年座」（興行場）で端野村農民同盟の発会式が行われ設立され、現在はJA端野地区事務所に事務所を置き、活動している。



乾杯シーン



設立70周年記念誌「七十年のあゆみ 挑戦」

5月10日 農作業に汗を流し 今後の糧に

新採用職員15名が農作業を体験する農家実習を行った。組合員と一緒に作業をすることで、農業の苦労ややりがいを身をもって体験し今後の業務に活かすことを目的に実施しており、玉ねぎ・てん菜の苗運びや補植に汗を流した。



玉ねぎの苗を運ぶ新人職員

20年のあゆみ

7月21日 第15回乳牛共進会開催 ～乳牛の資質を競い合う～

JAときたみらい酪農振興協議会の共催で訓子府町の北見管内畜産総合施設で乳牛共進会を開催し、JA地域から56頭の乳牛がエントリーされ、体型の美しさや骨格の力強さ、乳房のバランスなどの資質を競い合った。審査員は一般社団法人ジェネティクス北海道十勝北見事業所次長の吉田潤氏が務め、最高位賞は、「DH オット ダツシユ」が受賞した。

子ども達が手綱を引く「ショウマンショー」では14名が参加し、小学3年生以下の部と小学4年生から実習生の部が行われ、お母さんと一緒に幼児も手綱をリードする姿に会場は笑顔に包まれた。



未経産・経産の部の最高位と
準最高位の4頭と関係者の皆さん



経産の部 最高位を受賞した北見地区
山内誠さんの5歳クラス
「DH オット ダツシユ」

3月27日 「新婚さんの集い」を初開催 ～新婚激励会に9組16名が出席～

平成29年度に結婚した後継者及びパートナーを対象とした「新婚さんの集い」を初めて開催し、西川組合長からは祝福と激励の言葉が送られた。参加者らは互いに営農に向けた思いを話し合うなど交流を深め、仲間づくりを行った。



参加者で集合写真

5月14日

**小泉進次郎委員長が訓子府選果場を視察
～自民党農産物輸出促進対策委員会が来訪～**

自民党農産物輸出促進対策委員会の小泉進次郎委員長らや武部新環境大臣政務官は、農産物の輸出支援対策強化に向け、アメリカやロシア輸出への販路開拓に取り組む北海道のJAを視察する中で、当JA訓子府玉葱選果場と生産者圃場を訪れた。

西川組合長から小泉氏へロシア輸出の障壁や生産現場の課題や生産者の想い、玉葱列車の重要性について伝えられた。

玉葱選果場では、素早く丁寧に選別している作業に興味深そうに見学され、作業している作業員に優しい笑顔で手を振って精力的に視察した。

小泉氏からは「玉葱を見るたびに3個に1個はきたみらいの玉葱と思うこと、生産者を想うこと、西川組合長の政治家顔負けの話しぶりも思い出しながら、今月中に農産品の輸出拡大に向けた提言をまとめたい」と答えた。



視察団がきたみらい制服を着て



訓子府 林一樹さん親子と記念写真

8月31日

**老舗洋食店「つばめグリル」
生産者とシェフの交流会開催**

JAと東京の老舗洋食店「つばめグリル」は、JAセンター事務所にて生産者とシェフの交流会を開催し、生産者や関係者など約100人が参加した。



料理を囲んで交流する参加者

2019

令和1年

主なできごと

- 2月1日 1市2町へ芋玉贈呈
- 2月5日 冬期地区別懇談会(5~8日)
- 3月7日 第28回JA全国大会
- 4月2日 「新婚さんの集い」開催
- 4月3日 きたみらい酪農青年部設立10周年記念式典
- 4月10日 第16回JAきたみらい通常総代会
- 5月15日 JAきたみらいと北海道大学の共同研究「みらいプロジェクト」発足
- 6月20日 新規就農激励状授与式・交流研修会(12人就農)
- 6月27日 玉ねぎ集出荷施設修祓式・完成祝賀会
- 7月9日 夏期地区別懇談会(9~12日)
- 7月10日 南地域役員と青年部南支部役員との懇談会
- 7月20日 第16回JAきたみらい乳牛共進会
- 8月4日 きたみらいKid's販売体験(4~6日)
- 8月8日 役員作況調査
- 9月14日 HBCテレビ「あぐり王国北海道」収録(放送日19年10月19日 玉ねぎ収穫体験→選果場見学→料理の試食)
- 10月7日 ラッピングトレーラー完成報告会
- 10月10日 第11回JAみらいサミット(10~11日)
- 11月6日 地域女子会
- 11月7日 西地域役員と青年部西支部役員との懇談会(以降東地域)
- 11月12日 JA北海道大会実践フォーラム
- 11月18日 JAきたみらいと(株)湖池屋コラボ商品「じゃがいも心地」販売開始
- 12月7日 コンプライアンス研修会
- 12月25日 1市2町へ鏡餅贈呈



13戸でJGAP団体認証取得

玉ねぎ段ボールの改良でコスト削減



(従来品)



(改良後)



道産食材の魅力を詰め込み新発売



広報誌「おひさまサラダ」200号!

7月17日

農福連携事業スタート

障がい者の就労訓練や雇用の場だけではなく、労働不足問題を抱える農業にとって働き手の確保や地域農業の維持を目指した取り組みとして、農福連携事業の体験実証圃を設置し、北見市内3カ所でスタートした。同市にある就労移行支援施設「川東の里・風楽里」の利用者がそれぞれの受入農家を訪れ、ニンニクやサラダ玉ねぎの収穫作業などを行った。



作業の説明をする北見地区の佐藤正人氏



ニンニクの根切り作業をする利用者

5月15日

「みらいプロジェクト」が発足 ～地域農業の発展を目指し意見交換～

JAと北海道大学大学院農学研究院は共同研究「みらいプロジェクト」を立ち上げた。今年度からスタートした第5次地域農業振興方策並びに中期経営計画にも掲げられており、JAが研究費を寄附し、北海道大学が主体となってこれからのJAのあるべき姿を目指して調査を行い、JAが目指す豊かな農村づくりや地域との共存を目指していくことを狙いとしている。



西川組合長、坂下教授ら発足式に参加した関係者

20年のあゆみ

6月27日

「玉ねぎ集出荷施設」稼働 ～良質な玉ねぎの安定出荷に向けて～

北見市西相内に「玉ねぎ集出荷施設」が完成し、関係者約340人を招いた修祓式が執り行われた。修祓式で西川組合長は「JAきたみらいの玉ねぎは全国約20%のシェアを誇る日本一の産地であり、これまでも選ばれる産地を目指し、玉葱振興会と一体となった事業を展開し販売努力を進めてきた。しかし、安価な輸入玉ねぎの増加といった厳しい販売環境のなか、全国一の産地として更なる高みを目指すためには長期にわたり高品質な玉ねぎを安定供給するため最新鋭の集出荷施設を整備することが必要であった。この施設の完成により、日量約400tもの選果が可能となり、昨年完成した冷蔵貯蔵施設の稼働と合わせて今後は玉ねぎの長期出荷が強化され、消費者への安定供給並びに生産者の所得向上が期待できる」と述べた。



完成した施設



テープカットをする関係者

10月7日

ラッピングトレーラー完成報告会 ～地域へ食と農の魅力発信を目指し～

北見通運株式会社の協力のもと、農業やJAの情報発信を目指し2台のトレーラーにラッピングを施した。荷台の側面部分には農畜産物のキャラクターを描き、魅力ある農業やJAのアピール、サポーターづくりを図る一環として地域住民が楽しめるデザインになっている。



ラッピングトレーラーの前で集合写真

9月14日
”あぐり王国北海道NEXT”が取材

JAグループ北海道が提供するテレビ番組「あぐり王国北海道NEXT」の収録が行われた。ロケでは、日本一の産地である玉ねぎの収穫体験や国内最大級の選果場の作業風景、JAフレッシュミズが調理した料理の試食などが収録された。



収穫作業をする出演者と玉葱振興会の加藤副会長



玉ねぎを観察する出演者

10月12日
オホーツク農業祭2019開催

オホーツク農協青年部協議会は、「オホーツク農業祭2019」をサンドーム北見で開催した。オホーツク農業の特徴紹介や農畜産物・加工品の販売を始め、子供たちを対象に食育〇×クイズや、ゲーム形式でオホーツク地域農業の学習などを行い、青年部と消費者との交流と農業PRを行った。

JAきたみらい青年部役員は、JAオリジナル商品を販売し、中でも「玉ねぎとチーズが溶け込んだポークカレー」は新商品で、来場客の関心を寄せた。



店頭にて商品販売を行う青年部役員

2020

令和2年

主なできごと

- 2月6日 1市2町に芋玉贈呈
- 2月10日 冬期地区別懇談会（10～14日まで）
- 3月25日 JAきたみらいで家畜輸送業務を導入
ホクレントラック訓子府事業所の安全祈願祭を行う
- 4月1日 ベトナム人技能実習生受入開始（9人）
- 4月3日 馬鈴しょ粗選別機導入 修祓式を実施
（3日：置戸、10日：端野）
- 4月14日 第17回JAきたみらい通常総代会
- 4月14日 農作業事故「ゼロ」運動標語コンクール表彰
最優秀賞は
「安全に 作業してこそ きたみらい 安全に 作業するから 我がみらい」
- 5月25日 管内の学校などに乳製品贈呈（25～6月8日まで）
- 5月26日 YouTube「きたみらいスマート農業チャンネル」開設
- 5月27日 コントラクター事業の車両、機械の修祓式を実施
- 6月23日 西川組合長退任、道厚生連副会長就任
大坪組合長新体制でスタート
- 6月25日 新規就農者激励状授与式（14人就農）
- 7月13日 夏期地区別懇談会（13～16日まで）
- 10月1日 中ノ島給油所でピット作業再開
- 10月22日 「第8回プラチナ大賞」優秀賞技術革新賞 受賞
- 11月30日 管内小中学校に乳製品贈呈
- 12月25日 1市2町に鏡餅贈呈
- 1月29日 第50回日本農業賞「大賞」（きたみらい玉葱振興会）受賞
- 1月30日 訓子府車両整備工場・事務所棟・検査棟の修祓式を実施



コントラ事業による馬鈴しょ収穫



完成した訓子府車両整備工場



家畜輸送業務を開始



外国人技能実習生も加わり、
加工用馬鈴しょの選別スタート



第8回プラチナ大賞優秀賞
技術革新賞 受賞



外国人技能実習生を迎えての
春作業

2月18日 先端技術普及に向け、 スマート農業推進協議会設立

農業者の減少による農地流動化や労働力不足などの課題の解決および、各種作物の生産性の向上を目的に関心が高まるスマート農業を管内で普及啓蒙することを目的に、スマート農業推進協議会設立総会を開いた。

9人の委員で設立準備委員会を立ち上げて準備を進め、会員232人で協議会を設立。留辺蘂地区の荒喜文さんが初代会長に選任され、技術の高位平準化や地域への普及を目指す。



あいさつする荒会長

4月 牛乳を飲んで地産地消を応援

きたみらい管内の生乳で生産されている「きたみらい牛乳」が新型コロナウイルス感染拡大の影響で製造を休止した。地域のホテルや飲食店が次々に休業しているため、牛乳の消費が落ち込み、製造に必要な量を下回ったことが原因。

しかし、「客足が少なくても地元産を使いたい」と温泉施設からの要望をうけ、役員や農業関係団体など約400人に購入を呼びかけることによって250kgを超える消費となり、製造に必要な量を確保。4月15日より製造を再開した。



教育委員会への乳製品寄贈



きたみらい牛乳

20年のあゆみ

6月1日

人手不足で悩む農業法人のもとで、農業研修開始
～ピンチはチャンス、第一次産業学びきっかけに～

温根湯地区の(株)森谷ファームで石屋製菓(株)の若手社員らが農業研修を開始した。

一般社団法人北海道農業法人協会のサポータークラブ会員である石屋製菓(株)の北海道農業活性化に向けた取り組みで、新型コロナウイルス感染症の影響により休業していた製造工場や観光施設「白い恋人パーク」に勤務する入社3年以内で30歳未満の社員約130人が対象。人手不足となっている8農業法人のもとで農業研修を実施し、原料供給元の農業や酪農について学び、情報収集や生産者との関係構築を目的としている。



竹をまとめる社員

6月23日

西川組合長が道厚生連副会長に就任
大坪組合長のもと新常勤役員体制スタート

JA北海道中央会および各連合会（ホクレン・信連・厚生連）は6月23日、24日に通常総会を開催した。3年ごとの役員改選期にあたり、西川孝範組合長が北海道厚生連代表理事副会長と全共連北海道本部運営委員会副会長に選任された。

それに伴い、西川会長、大坪広則組合長、齊藤和雄専務、高橋優常務、越田喜裕常務によるきたみらいの役員体制がスタートした。



あいさつをする西川会長



就任あいさつをする大坪組合長と齊藤専務

7月27日

置戸町と災害時における石油類燃料等の協定締結

災害時における石油類燃料を優先的に供給する協定を置戸町と締結した。

2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震で起こったブラックアウトにより、搾乳や生乳の冷却ができなくなるなど酪農家を中心に甚大な被害が発生した。これをきっかけにきたみらいでも災害に対する備えを見直し、2019年にきたみらい管内の事務所、給油所に発電機を設置するなど対応。このことを受け、地域住民への石油類燃料の安定確保を図る目的として、置戸町から協定締結の依頼を受けて実現した。



左から流水購買部長、大坪組合長、深川置戸町長、箕島置戸副町長



給油所に設置された発電機

11月5日

スマート農業を体験 女性農業者研修を開催

女性に限定したスマート農業研修会を訓子府町のホクレン訓子府実証農場で初めて開催した。少子高齢化で組合員が減少する中、女性にもスマート農業を推進・普及することで人手不足の解消や作業の省力化につなげる目的で企画し、29人が参加。

自動操舵トラクターの試乗やアシストスーツの試着などを通して次世代の農業について学ぶとともに、実際の事故事例の説明を受け、事故防止の重要性についても再確認した。



自動操舵トラクターに試乗する参加者



アシストスーツを体験する参加者

2021

令和3年

主なできごと

2月4日	第50回日本農業賞「大賞」・農林水産大臣賞（きたみらい玉葱振興会）受賞
2月8日	冬期地区別懇談会（8～12日まで）
3月6日	第50回日本農業賞「大賞」（きたみらい玉葱振興会）表彰式
4月12日	第18回JAきたみらい通常総代会
5月13日	全国農業協同組合中央会会長賞 普及率全国最高JA表彰式
5月21日	新型コロナウイルス感染防止対策会議（以降随時）
6月2日	玉ねぎ茎葉処理施設修祓式
6月24日	新規就農者激励状授与式・交流研修会（19人就農）
7月9日	訓子府玉ねぎむき玉選別加工施設 完成
8月18日	JAきたみらい東京事務所 開設
10月6日	第60回農林水産祭「天皇杯」（きたみらい玉葱振興会）受賞
10月8日	乳牛共進会「2021 Autumn Show」
11月1日	地区別懇談会（1～5日まで）
11月8日	端野資材拠点店舗 開店
11月16日	第30回JA北海道大会
11月23日	第60回農林水産祭「天皇杯」（きたみらい玉葱振興会）受賞式
12月4日	コンプライアンス研修会
12月8日	第12回JAみらいサミット
12月24日	1市2町へ鏡餅贈呈
1月27日	オホーツクJA監事研修会



端野資材拠点店舗の開店



女性部部員交流会（カーリング）



みらいプロジェクト中間報告会を実施



合併記念共進会の開催

きたみらいホルスタイン改良同志会は10月8日、訓子府町の北見管内畜産総合施設で乳牛の共進会「2021Autumn Show」を開催した。



コーチャンフォーマルシェに出店

【きたみらい玉葱振興会】
第60回農林水産祭「天皇杯」受賞
第50回 日本農業賞「大賞」受賞

きたみらい玉葱振興会が第50回日本農業賞大賞・集団組織の部で大賞および農林水産大臣賞をダブル受賞した。

日本農業賞は、日本放送協会（NHK）、全国農業協同組合中央会（JA全中）、都道府県農業協同組合中央会が昭和46年に創設。

「全国最大の玉葱産地を築き上げるために旧8農協が広域合併し、巨大ロットの集荷・販売を実現。100年前から「北見玉葱」の栽培が始まり、作付面積が拡大していく一方、平成14年には全道で48,000トンの玉葱が大量廃棄に。翌年、きたみらい玉葱振興会を結成し、産地形成を守った。同振興会は、品質の高位平準化を掲げ、品質向上と安定的な質・量の確保に繋げた」との評価を頂いた。

その後、きたみらい玉葱振興会は10月6日に第60回農林水産祭天皇杯を受賞し、11月23日に受賞式が開催された。農林水産祭は、国民の農林水産業に対する認識を深め、農林水産者の技術改善や経営発展意欲の高揚を図ることを目的に行われている。同振興会の根切り技術や定置式タッパーの開発など技術開発、需要に応じた出荷体制の構築による安定的な市場の形成と経営の安定化等の取組みが評価された。



天皇杯の賞状を授与される加藤会長



受賞した「天皇杯」カップ



表彰式での記念写真



表彰状を授与される加藤会長



新しく印字された段ボール

20年のあゆみ

4月14日 第1回スマート農業講習会

きたみらいスマート農業推進協議会は、JAセンター事務所にて第1回スマート農業講習会を開き、生産者やJA職員など約50人が参加した。

同協議会は、スマート農業技術の導入・普及で農業者の減少による農地流動化や労働力不足などの課題解決や各種作物の生産性の向上を目指すため、前年2月に設立。今回の講習会はスマート農業に関する知識を深めてもらい、これから本格化する農作業の不安を解消することを目的に開催した。



スペースアグリ講習の様子



GPSガイダンス講習の様子

8月5日・12日 牛乳贈呈で病院を応援！

JAは、感染症指定医療機関であり地域の新型コロナウイルス感染防止、治療に向けて取組む病院を応援するためオホーツク地域の厚生病院（網走・遠軽）へ「きたみらい牛乳」を寄贈した。

「きたみらい牛乳」は同JA管内の生乳が使用されている。5日に網走厚生病院へ500本、12日に遠軽厚生病院へ400本の牛乳が贈られた。



きたみらい牛乳を持つ
網走厚生病院中野院長と大坪組合長

8月2日 圃場に大きなアート出現 ～JAきたみらい青年部～

JA青年部西支部は、北見市留辺藪町で圃場アートの作成を行った。新型コロナウイルス拡大防止のため、部員5人とJA職員ら少人数での実施となった。

同事業は、農業PRやGPS技術の活用事例を学ぶことを目的に、GPSトラクターを用いて小麦収穫後の圃場にて行った。同JA管内では初の試みでうまくできるか不安もあったが、完成した「JAきたみらい」の文字に参加者からは感嘆の声が挙がった。



完成した圃場アート

8月14日 干ばつ気象に伴う作況視察

北海道内全域では高温と少雨によって、過去にないほどの異常な干ばつとなった。当地域でも6月から7月にかけての降水量は例年の40%ほどであった。その影響を受け、玉ねぎの変形や飼料作物の減収、農作物が枯れるなど多大な被害が出た。

これをうけて武部新代議士が8月14日にJAを訪れた。当地域の各作物生育状況を報告後、生産者からの説明を交えて玉ねぎと馬鈴しょの圃場を視察した。また、北海道農政部やJA北海道中央会も7月30日に当地域を訪れ、作物生育状況の確認や圃場視察を行った。



圃場視察を行う当JA役員と武部新代議士

2022

令和4年

主なできごと

2月28日	冬期地区別懇談会（28～3月3日まで）
3月9日	2021年度特別優良農業協同組合表彰 受賞
4月12日	第19回JAきたみらい通常総代会
6月29日	新規就農者激励状授与式・交流研修会（20人就農）
7月7日	監事視察研修（～9日まで）
7月11日	夏期地区別懇談会（11～15日まで）
7月16日	第19回JAきたみらい乳牛共進会
8月7日	きたみらいkid's in 札幌（～9日まで）
8月26日	合併20周年記念事業実行委員会（以降随時）
11月4日	南地域女子会（以降各地域）
11月11日	南地域青年部いきなり飲み会（12月2日東地域で開催）
12月3日	コンプライアンス研修会
12月7日	第13回JAみらいサミット
12月26日	1市2町へ鏡餅贈呈
1月16日	きたみらい玉葱振興会市場協議会



7月26日 高校で出張授業

食育やサポーターづくり、人材育成の一環として留辺蘂高校や北見藤高校で出張授業を行った。また、2校には日本農業新聞を提供し、購読してもらうことで食や地域農業への理解を深めてもらった。



10月 資材高騰対策などについて 3行政へ支援要請

新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢の影響から営農に必要不可欠な生産資材が高騰。食料安全保障強化の実現を図るため、生産者の営農にとって即効性のある施策を講じてもらうよう、北見市、訓子府町、置戸町及び各議会に対して支援要請した。



7月13日 農福連携で農作業実施



2021年度特別優良農業協同組合表彰 受賞

2月

端野地区で第三者経営継承に向けた研修開始

端野地区では、池田直貴（なおき）さんと理（みち）さん夫妻が第三者継承による就農を目指して福田嘉博さんの農場で2年間の研修を開始した。研修を10日ほど行い、「体を使う仕事と改めて感じており、毎日がとても充実している」と笑顔で話した。



皆さんで集合写真



玉ねぎの伏せ込みを行う様子

3月24日

牛乳消費拡大運動に取り組む

コロナの影響や学校の春休みによって学校給食がなくなるなど牛乳需要が落ち込むことから、消費拡大運動に取り組んだ。

JA管内にあるホクレンスタンド6か所の利用者に牛乳1ℓパックの無料配布を行い、総数1,650本の牛乳をきたみらい酪農振興協議会やきたみらい酪農青年部の役員が協力して直接手渡した。



スタンド利用者に牛乳を渡す役員

6月28日

女性農業研修会を開催

訓子府町で女性農業者研修会を開催し、管内から11人が参加した。

この研修会は、これからトラクターのオペレーターを目指すなど農作業に対して意欲のある女性農業者を応援するため、農業基礎や農作業安全の知識習得を図ってもらうことを目的に開催した。



トラクターの危険箇所を確認



グループワークを行う参加者

20年のあゆみ

6月29日 豪雨・降雹による被害状況を視察

6月18日から20日にかけてオホーツク海側を中心に豪雨、降雹が発生し、当地域では玉ねぎを中心とした農作物の折損や土砂の流亡など広範囲で大きな被害に見舞われた。

武部新農林水産副大臣やJAグループ北海道などが6月29日に最も大きな被害を受けた訓子府地区を訪れ、JA役員などから被害状況を報告したほか圃場視察が行われた。



被害状況を視察する武部副大臣ら



7月8日 ドローン導入促進へ向けて 講習会

作物の生産性向上に向けて、ドローンの活用を目指そうと、きたみらいスマート農業推進協議会が講習会を開催した。



ドローンの説明を受ける参加者

7月21日 道からJ-VER証明書を 贈呈される

当JA管内で行うカーボン・オフセットの取組みに対して、北海道からオフセット・クレジット証明書が贈られた。



贈呈式の様子

8月7日 組合員子弟 声を枯らしPR

8月7日から9日の3日間、組合員の子弟を対象にした「きたみらいキッズ販売体験」を行った。

北見市と訓子府町、置戸町の小学5年生～中学1年生22人が参加して地元農産物をPRした。

同事業は、食農教育活動の一環として行われ今回で5回目となった。ホクレンの協力のもと北広島市にあるくるるの杜でJA産の玉ねぎと馬鈴薯を販売し、商品やPOPを手を持ち来場者にPRした。最初は緊張している様子だったが、大きな声でセールスポイントを説明し、用意した商品を完売させた。

最終日には、ホクレンの札幌野菜センターを見学し、全道から届いた野菜が袋詰めされていく様子を見て目を輝かせていた。子どもらは「畑で採れた野菜が消費者に届くまでを目で見て体験できて楽しかった」と話し、夏休みの貴重な学習の場となった。



販売体験を行う参加者



野菜センターで野菜の袋詰めを見学するキッズたち

11月4日 第2回地域女子会を開催

令和元年の第1回から3年振りに開催した。各地域合わせて54人が参加し、JA役員との懇談会を行った。JAによる農畜産物生産向上ビジョンについて説明後、コース料理を囲んで懇談した。



南地域女子会での乾杯の様子



第3章

女性・青年組織、生産組織、団体のあゆみ



JAきたみらい青年部

設立 平成16年2月19日
部員数 215名
部長 昆野 将之

主なできごと

- 2013.2.17 JAきたみらい青年部第9回通常総代会
- 2013.3.10 TPPから「地域」「経済」「生活」を守る オホーツク緊急集会
- 2013.7.12 スポーツ交流大会「ソフトボール」
- 2013.11.14 ヨーロッパ農業視察研修（ドイツ・フランス14～22日まで）
- 2014.2.17 JAきたみらい青年部第10回通常総代会
- 2014.6.2 第1回部員交流視察研修（2～3日まで）
- 2014.12.28 JAきたみらい青年部学習会「なぜJAグループに改革を求められているか」
- 2015.1.15 東北・北海道地区JA青年部大会 遠藤正人氏（北見）代表スピーチ
- 2015.2.18 JAきたみらい青年部第11回通常総代会
- 2015.3.22 「TPPから命と暮らしを守ろう」北海道緊急大集会
- 2015.6.11 遠紋・北常ブロックスポーツ交流大会（湧別町）
- 2015.9.17 つばめグリル（東京）産地交流会
- 2015.10.17 オホーツク農業祭2015
- 2016.2.15 JAきたみらい青年部第12回通常総代会
- 2016.4.5 北海道JA青年部研修会
- 2016.8.8 教員を対象とした農村ホームステイ事業（8～9日まで）
- 2016.12.21 JAきたみらい青年部学習会
「社会人としての身だしなみについて ～スーツの着こなし方～」
- 2017.2.13 JAきたみらい青年部第13回通常総代会
- 2017.3.9 オホーツクJA青年部協議会第67回定期総会
- 2017.11.20 海外農業視察研修（オーストラリア20～26日まで）
- 2017.12.12 三組織合同視察研修（12～14日まで）
- 2018.2.1 JAおきなわ 南北交流（援農）
- 2018.2.14 JAきたみらい青年部第14回通常総代会
- 2018.5.10 北見市食育事業「出前授業」（美山小学校）
- 2018.6.29 部員職員スポーツ交流会
- 2018.7.21 婚活事業「婚活ツアー」（21～22日まで）
- 2019.2.13 JAきたみらい青年部第15回通常総代会
- 2019.3.19 共同研究農業プロモーション事業 農作業現場見学
- 2019.6.6 JAコネクト意見交換会
- 2019.9.24 北見市農泊推進協議会 設立総会参加
- 2020.2.7 JAきたみらい青年部第16回通常総代会
- 2020.6.22 地元農産物PR事業 どん焼きPJ
- 2020.7.18 農業PRオホーツクの食と料理トークライブ
- 2020.8.9 農泊推進事業 モニター体験（端野 斉藤正廣氏宅）
- 2021.2.15 JAきたみらい青年部第17回通常総代会（書面議決）
- 2021.6.7 農業PR
JAきたみらい紹介ランディングページの制作・YouTube広告CM開始
- 2021.8.7 農泊推進事業
「じゃがいも掘り体験 じゃがバターツアー」（端野 斉藤正廣氏宅）
- 2021.12.17 JAきたみらい青年部学習会「メンタルヘルスについて」ZOOM開催
- 2022.2.15 JAきたみらい青年部第18回通常総代会（書面議決）
- 2022.3.24 役員会（ペーパーレス開始）
- 2022.7.16 北見市農泊推進事業 ファーマーズツアー開催
- 2022.11.20 農作業事故撲滅フラッグ完成（組合員全戸へ配布）
- 2022.12.17 婚活事業 「トナコン」開催

「激動の時代を乗り越えるために」

JAきたみらい青年部

部長 昆野 将之

きたみらい農業協同組合が設立20周年を迎えられたこと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃から青年部に対しまして、多くの組合員や役員、関係各位のご尽力やご指導、ご鞭撻を賜り心より感謝申し上げます。

青年部におけるこの10年を振り返ってみますと、平成25年に328人いた部員は令和5年に215人と100人以上減少し、それに伴い8地区にそれぞれあった支部は3支部に集約されました。また、令和2年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大は我々の活動を停滞させ、一時的ではございますが部員や地域とのつながりを希薄化させました。

農業情勢に目を向けますと、世界情勢の激化や物価高騰、気候変動など様々な苦難に直面しています。

そのような激動の時代に対応し、安心安全な食料を安定して供給する使命を果たしていくために、青年部は広いネットワークを活かして知識や技術研鑽を行うとともに、広く交流してつながりを持つことが重要と考えます。相互扶助の精神でJA、地域が一丸となることで、この困難を乗り越えていけるものと信じております。

結びに、きたみらい農業協同組合が今後ますますご発展されますことをご祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。



部長 昆野 将之



副部長 大関 涼雅



副部長 梶浦 貴志

役員一覧

役職	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名
部長	留	荒 喜文	北	米森 弘	留	坂下修一	北	引地隆之	訓	藤森秀志	北	安斉亮一
副部長	相	森谷祐樹	置	小山勇樹	端	小林章三	訓	高城耕一	端	加藤 葵	端	斉藤正廣
理事	上	川畑師和	訓	須河岐文	訓	佐々木利治	置	伊東憲一	留	橘 秀俊	相	星加陽平
	温	東海林健	温	福田政行	置	伊東憲一	置	片桐敏史	相	星加陽平	置	結城有一
	留	坂下修一	置	中川 隆	訓	高城耕一	訓	藤森秀志	訓	上原寛隆	訓	鏡 浩二
	相	小野博之	訓	佐々木利治	端	中野洋介	上	大林宏信	端	斉藤正廣	北	石原正啓
	置	小山勇樹	北	福井啓之								
	上	景政大雄	端	小林章三								
	端	赤塚洋介										
代表監事												
監事	訓	須河岐文	留	坂下修一	北	引地隆之	留	橘 秀俊	置	篠木雄一郎	温	児玉友和
	北	米森 弘	相	小野博之	温	福田政行	端	加藤 葵	北	安斉亮一	端	菅原友和
部員数	328名		317名		302名		290名		263名		263名	

役職	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名
部長	北	石原正啓	置	有馬慎吾	置	有馬慎吾	端	貝沼隼人	訓	昆野将之
副部長	端	斉藤正廣	訓	上杉勇二	訓	上杉勇二	相	大武弘幸	温	大関涼雅
理事	訓	鏡 浩二	留	坂下祐太	留	坂下祐太	置	野里智也	上	梶浦貴志
	訓	上杉勇二	温	長尾竜機	相	大武弘幸	温	大関涼雅	相	高橋竜也
	北	萩原涼太	置	遠藤泰斗	置	野里智也	訓	山本将志	置	広中 諭
	端	貝沼隼人	訓	浜田和晃	訓	林 慎也	訓	昆野将之	訓	兼安拓実
			北	鉄地河原進	上	梶浦貴志	端	川島拓磨	端	安藤康佑
代表監事			訓	鏡 浩二	訓	鏡 浩二	留	坂下祐太	端	貝沼隼人
監事	置	有馬慎吾	端	貝沼隼人	端	貝沼隼人	上	梶浦貴志	端	川島拓磨
	留	坂下祐太								
部員数	267名		253名		227名		214名		215名	

平成25年度

JAきたみらい青年部主催のヨーロッパ農業視察研修を実施。部員17名が参加し、海外の農業事情を学んだ。また8支部合同で「ソフトボール大会」を開き、各支部間の交流を図るとともに、部員間の結束を強めた。



ヨーロッパ農業視察研修（ドイツにて）

平成26年度

8支部のうち上常呂支部が北見支部に合併され、7支部体制となった。青年部としては初の試みとなる実施日を選択制とした部員交流視察研修では札幌の「アサヒビール園北海道」と苫小牧の「北海道サニックス環境」を視察し、部員同士の交流や見聞を広めた。



部員交流視察研修（北海道サニックス環境にて）

平成27年度

相内、留辺蘂、温根湯支部が合併して西支部になり、5支部体制となった。青年部の部員交流事業のスポーツ交流会ではリレーや綱引きなど5種目からなる運動会を行い、部員約100人が参加。支部の垣根を越えて交流を深めた。



スポーツ交流会で白熱した綱引き

平成28年度

生産組織等で対外的に対応する場面が増えてくることを想定し、社会人としての身だしなみについての学習会を開催。社会人としての自覚を再認識する機会となった。また、部員交流視察研修は3回に分けて開催し、旭川の「高砂酒造」と江別の「ヤンマーアグリジャパン」を視察。合わせて90名が参加した。



身だしなみを学ぶ部員たち

平成29年度

例年開催しているスポーツ交流会に新人職員も参集し、部員だけでなく職員との交流も図った。4年に一度の海外農業視察研修はオーストラリアを訪れ、農場や農機会社、卸売市場などを視察。海外の農業事情について知識を深めた。



海外農業視察研修（オーストラリアにて）

平成30年度

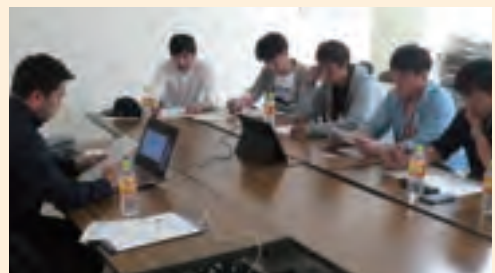
訓子府、置戸支部が合併し南支部が、端野、上常呂、北見支部が合併し東支部が設立。西支部と合わせて3支部体制となった。担い手対策事業として本部主催で婚活事業を実施。メイン企画として婚活ツアーを実施し、10組程度のマッチングに成功した。



婚活ツアー（大江本家にて）

令和1年度

組合員と職員の新しいコミュニケーションツールの構築を目的として、JAコネクットの試験運用を部員共同研究と位置づけ、実装に向けて開発元との意見交換や使用感の確認を行った。北見市農林水産観光会議への出席や酵母菌の研究者とタッグを組んだ農産物のアピール活動など、他業種・他機関との交流事業も展開し、きたみらい農業のアピールを行った。



JAコネクット意見交換会

令和2年度

新型コロナウイルスの感染拡大により農畜産物の需要が減少するとともに、青年部事業も大幅に制限された。そのような中でもできる取り組みとして農業PRを核に事業を展開し、地元老舗和菓子店とタッグを組み、きたみらい公認どら焼きを制作した。



完成したどら焼きを手に

令和3年度

令和2年度に続き事業活動が大幅に制限されたため、農業PRを軸に活動を展開。全国展開の農業PRを目標に、YouTubeインストリーム広告に制作した農業PR動画をCM起用したほか、生産者一人ひとりの農業に対する思いを発信し、産地を見える化する取り組みとして、広告から飛べるランディングページ「CRAFT FOOD CITY KITAMI」を制作した。



生産者の思いを紹介したランディングページ

令和4年度

農作業事故の低減に向けた事業を柱に活動。ホクレンと(株)クボタを招いて農作業事故学習会を実施し、個々の事故防止意識の再確認を行うとともに、農作業事故撲滅フラッグを制作し、全戸配布による啓蒙活動も実施。令和3年度から進めるCRAFT FOOD CITY KITAMIの作り手紹介についても、コンテンツの拡充を行い農業PRを継続的に行った。



農作業事故撲滅に向けて

JAきたみらい女性部

設立 平成16年3月3日
部員数 175名
部長 宮下 美由紀

主なできごと

2013.2.17	JAきたみらい女性部第9回通常総代会
2013.6.6	JA常勤役員との意見交換会
2013.7.7	支部合同活動「視察研修」(札幌・千歳方面)
2013.7.25	全道TPP集会
2013.11.8	合併10周年記念式典・感謝の集い並びに祝賀会
2013.12.9	外郭三組織合同視察研修
2014.1.29	オホーツクJA女性部大会・家の光大会
2014.2.19	JAきたみらい女性部第10回通常総代会
2014.6.4	JA常勤役員との意見交換会
2014.11.17	四国(高知県)農業視察研修
2014.11.28	支部合同活動「部員研修会」(フラワールレンジメント他)
2014.12.10	三組織合同設立10周年式典
2015.2.3	オホーツクJA女性部大会・家の光大会並びに設立60周年記念式典
2015.2.18	JAきたみらい女性部第11回通常総代会
2015.2.18	「JA介護福祉事業を求める要望書」提出
2015.6.5	JA常勤役員との意見交換会
2015.7.1	JA高知市女性部との意見交換会
2015.7.9	支部合同活動「部員交流視察研修」(札幌・石狩方面)
2015.11.11	第28回JA北海道大会
2015.12.8	三組織合同視察研修
2016.2.1	オホーツクJA女性部研修大会・家の光大会
2016.2.15	JAきたみらい女性部第12回通常総代会
2016.6.7	JA常勤役員との意見交換会
2016.11.18	支部合同活動「部員交流研修会」(お茶の淹れ方講座他)
2016.11.22	九州農業視察研修
2016.11.30	三組織意見交換会
2017.2.1	オホーツクJA女性部研修大会・家の光大会
2017.2.14	JAきたみらい女性部第13回通常総代会
2017.6.5	農作業安全講習会(フレッシュミズ合同)
2017.6.25	支部合同活動「部員交流視察研修①」(札幌市)
2017.6.29	JA常勤役員との意見交換会
2017.7.9	支部合同活動「部員交流視察研修②」(札幌市)
2017.11.30	三組織意見交換会
2017.12.12	三組織合同視察研修
2018.2.1	オホーツクJA女性部研修大会・家の光大会
2018.2.15	JAきたみらい女性部第14回通常総代会
2018.6.11	JA常勤役員との意見交換会
2018.6.26	支部合同活動「部員交流視察研修①」(小樽市)
2018.7.5	支部合同活動「部員交流視察研修②」(小樽市)
2018.11.11	新潟・東北農業視察研修
2018.11.30	三組織意見交換会
2018.12.11	三組織合同視察研修
2019.2.1	オホーツクJA女性部研修大会・家の光大会
2019.2.13	JAきたみらい女性部第15回通常総代会
2019.6.13	JA常勤役員との意見交換会
2019.7.16	北大共同研究
2019.11.18	支部合同活動「部員交流研修会」(コーヒーの淹れ方講座他)
2019.12.10	三組織合同視察研修
2020.2.4	オホーツクJA女性部研修大会・家の光大会
2020.2.17	JAきたみらい女性部第16回通常総代会
2020.4.17	「手作りマスクの作り方」イラスト送付
2020.6.22	「ヒマワリの花種子」配布
2020.11.19	「マスク・消毒用ハンドジェル」配布
2021.2.15	JAきたみらい女性部第17回通常総代会(書面議決)
2021.7.16	子ども食堂への食材提供①
2021.10.14	子ども食堂への食材提供②
2021.11.16	第30回JA北海道大会
2022.2.15	JAきたみらい女性部第18回通常総代会(書面議決)
2022.6.23	支部合同活動「部員交流視察研修①」(白老・札幌方面)
2022.7.7	支部合同活動「部員交流視察研修②」(白老・札幌方面)
2022.11.15	福井・石川農業視察研修
2022.12.13	三組織合同視察研修

「女性のパワーで明るい地域農業に」

JAきたみらい女性部

部長 宮下 美由紀

きたみらい農業協同組合の設立20周年、心からお慶び申し上げます。

また、日頃から当女性部に対しまして、ご指導とご厚情を賜り心より感謝申し上げます。

JAの合併から遅れること1年、平成16年3月に約600人の部員が結集して立ち上がった当女性部ですが、現在は175名で活動しています。「魅力ある女性部活動」をキーワードに、部員が「参加して良かった」と感じる活動の企画、減少する部員数に歯止めをかけるための勧誘活動などに取り組んでいます。

日々、農業を取り巻く情勢が厳しさを増す中、このJAきたみらいが明るい地域農業を作っていくためには組織として一つとなり、協力することが重要であり、私たち女性の力も大きなエネルギーになるのではないのでしょうか。女性部としてできることを考え、SDGsの理念と絡めながら女性ならではの発想を活かし、行動に移していくことが私たちの使命だと思います。地域貢献活動や視察研修、講習会などを通じて見識を広めるなどJA女性部としてできることはたくさんあり、息抜きの場として家事や育児、農作業についてのちょっとした会話、地域を超えた友人作りができるのもメリットの一つです。これらの活動を実践することで、部員がパワフルに、そしてJAが元気になることを確信しています。そのためには、ご家族の皆さんやJAのご協力が不可欠ですので、女性が活躍し、明るい地域農業実現のために皆様のご支援とご協力を切に願うものです。

最後になりましたが、きたみらい農業協同組合のますますのご発展をご祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。



部長 宮下 美由紀



副部長 兼安 美由紀



副部長 萬城 一葉

役員一覧

役職	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名
部長	置	斉藤のり子	置	斉藤のり子	置	斉藤のり子	留	武田志津子	訓	北野はるみ	訓	小林まゆみ
副部長	北	黒須倫子	北	黒須倫子	北	黒須倫子	北	黒須倫子	西	茂住真澄	置	河野智子
理事	相	川岸啓子	訓	齊藤晴美	温	山梨則子	訓	中山町子	端	中 智子	端	松下明美
	温	牧野千代	相	森谷美佐江	留	武田志津子	温	下込絹恵	置	河野智子	西	大関悦子
	留	飯田恵津子	置	有馬郁子	相	林 秀子	留	茂住真澄	訓	小林まゆみ	置	柏原千恵子
	相	星加智子	訓	林比呂子	訓	中山町子	相	北村陽子	北	米森美恵子	訓	河合三枝
	置	東海林静子	上	合田明子	上	山本純子	置	中尾のぶ子	端	松下明美	端	嶺三紀子
	訓	齊藤晴美	北	和田祥子	北	佐伯真由美	訓	北野はるみ				
上	河野由美子	端	山腰育子	端	植村礼子	上	溝手範子					
監事	北	井上峰子	温	山梨則子	温	永江美貴子	北	米森啓子	西	大武豊子	上	河野由美子
	訓	杉本千恵子	留	橘 佳子	置	嘉藤常子	端	中 智子	上	角田優子	北	小川美代子
部員数	305名		284名		265名		257名		234名		231名	

役職	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名
部長	上	河野由美子	訓	細川美重子	北	信田佐和子	端	川島睦美	北	宮下美由紀
副部長	訓	河合三枝	置	中澤ひさ子	訓	南まゆみ	置	堺 敦子	訓	兼安美由紀
理事	端	嶺三紀子	北	小野里美	上	草場佳子	訓	今野浩美	上	萬城一葉
	西	石井加代子	西	牧野千代	訓	今野浩美	西	茂住真澄	西	飯田弥生
	訓	細川美重子	置	齊藤さおり	上	馬場佳江	置	大和谷由理	訓	佐藤真美子
	上	溝手範子	訓	南まゆみ	北	齊藤はるみ	訓	兼安美由紀	上	森田幹子
	端	安藤幸子	端	古屋君江	端	川島睦美	端	福原良子	端	小林千鶴子
監事	置	中澤ひさ子	上	草場佳子	西	武田志津子	上	萬城一葉	置	大槻由紀江
	北	小野里美	北	信田佐和子	置	堺 敦子	北	宮下美由紀	北	古瀬子
部員数	231名		222名		208名		195名		177名	

平成25年度

支部合同活動では視察研修を行い、1日目は劇団四季「美女と野獣」鑑賞、北海道日本ハムファイターズのプロ野球観戦の選択制で実施。約50%の参加率で盛会に終えた。また、本部役員が中心となり、TPP交渉参加反対を表明する運動に積極的に参加した。



プロ野球観戦の様子

平成26年度

支部合同活動の研修会では、午前に音楽療法士の高本恭子氏の講演、午後からは部員が研修内容（フラワーアレンジメント・歌謡ビクス）を選択する形で実施。11月にJA高知市女性部との交流会を主とした高知県農業視察研修、12月に設立10周年記念事業をJA青年部・JAフレッシュミズとともに実施した。また、JAが主体となった介護福祉事業に対する要請活動の一環として、女性部員を対象とした説明会の開催、意向調査を行った。



高知県農業視察研修での集合写真

平成27年度

支部合同活動での視察研修では、劇団四季「CATS」鑑賞、ホクレンパルライスの工場見学を行い、5割以上の部員が参加した。前年度に訪問したJA高知市女性部が来北し、交流会や意見交換会を行い、絆を深めた。女性部から要望した「JAに求める介護福祉事業」では、JAで相談窓口を開設し、専門相談員を配置することとなった。



視察研修の様子

平成28年度

11月に3泊4日の九州農業視察研修を実施。長崎県のグラバー園や平和記念公園、佐賀県では有田焼きの陶芸体験を行い、参加した49名の部員は有意義な研修となった。支部合同活動の研修会では、安達祐子氏による講演や講習会を実施。フレッシュミズにも声掛けし、延べ約130名が参加した。



九州農業視察研修での集合写真

平成29年度

前年度6月に開設された「JA生活相談員」との連携・協調を図るため、本部役員との意見交換会、支部主催の介護保険制度に関する研修会などを積極的に開催した。支部合同活動の視察研修では、部員の参加率向上に向けて行程を2コース、日程を2回に分けた結果、120名と多くの部員が参加した。



西支部介護保険制度の研修会

平成30年度

新潟・東北農業視察研修では、郷土菓子作り体験や食育施設、直売所の見学、東日本大震災の津波被災地訪問などを通じ、見聞を広めたほか、部員同士の交流を深めた。JAフレッシュミズとの合同研修会を通じて、徐々に女性部との兼部者が増えており、新しい女性組織の形を考える手掛かりとなった。



新潟・東北農業視察研修での様子

令和1年度

支部合同活動の研修会では、南極料理人として知られる西村淳氏による講演、部員選択制とした3種類の講習会を開催。JAフレッシュミズ会員にも声掛けし、約100名が参加した。若い世代へのアプローチとして、この年からJAフレッシュミズと兼部する部員の金銭的な負担軽減を目的とした施策を講じた。



部員交流研修会
おいしいコーヒーの入れ方を学ぶ部員

令和2年度

過去に類をみない新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの活動を自粛、中止といった対応を迫られ、組織活動の重要性を痛感した1年となった。そのような状況下でもできる活動を探し、マスクや消毒用ハンドジェル、「手作りマスクの作り方」イラスト、部員を元気づけるヒマワリの花種子の配布を実施した。西支部の相内地区では、相内支店との協力で、例年行っている花壇づくりを行った。



花壇づくりを行う部員

令和3年度

昨年度に引き続き、感染症への対応として多くの活動の自粛、中止の対応が迫られた。そのような中、SDGsの取組みの一環として、北見市内子ども食堂への食材提供やオリジナル買い物カゴ、エコバッグの部員配布を行った。また、役員研修で企画開発グループとの意見交換会を行い、女性ならではの目線でアイデアを伝え、農協事業に参画した。



子ども食堂への食材提供

令和4年度

新型コロナウイルス感染症の影響を残す中、対策を徹底し、部員交流視察研修や国内農業視察研修で久しぶりの全体活動を行い、部員間の交流を深めた。本部役員研修では、金融共済事業について学習し、農協事業への理解を深めた。



国内農業視察研修での集合写真

JAきたみらいフレッシュミズ

設立 平成16年2月12日
 会員数 46名
 会長 有馬 芳枝

主なできごと

2013.2.18	第9回通常総代会
2013.4.2~3	役員研修
2013.6.6	JA常勤役員との意見交換会
2013.6.12	学習する組織への改革推進協議会
2013.6.27	TPPを考えるフォーラム
2013.7.1~2	8支部合同視察研修
2013.7.22	TPPから「地域」「暮らし」「いのち」を守るオホーツク総決起集会
2013.10.6	JAきたみらい「ふれあい農業祭」に参加
2013.10.29	学習する組織への改革推進協議会
2013.11.12	8支部合同活動会員研修会
2013.12.2~3	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2013.12.9~12	外部組織合同視察研修
2014.1.21~24	きたみらい馬鈴薯振興会道外販売推進
2014.2.20	第10回通常総代会
2014.4.3~4	役員研修
2014.6.4	JA常勤役員との意見交換会
2014.7.18	8支部合同学習会
2014.11.20	8支部合同活動会員研修会
2014.11.25~27	国内農業視察研修
2014.12.3~4	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2015.1.28~29	第20回JA北海道女性協フレッシュミズ部会北海道交流集会
2015.2.20	第11回通常総代会
2015.4.1~2	役員研修
2015.6.1	JA常勤役員との意見交換会
2015.6.19	8支部合同学習会
2015.11.13	8支部合同活動会員研修会
2015.11.30~12.1	JAオホーツク女性協フレッシュミズ部員研修会
2015.12.8~10	青年部・女性部・フレッシュミズ三組織合同視察研修
2016.1.26~27	第21回JA北海道女性協フレッシュミズ部会北海道交流集会
2016.2.16	第12回通常総代会
2016.3.31~4.1	役員研修
2016.6.7	JA常勤役員との意見交換会
2016.7.5~6	会員交流視察研修
2016.7.6	会員交流日帰り研修
2016.11.15	会員交流研修会「運動会」
2016.12.6~7	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2017.2.15	第13回通常総代会
2017.4.3~4	役員研修
2017.6.29	JA常勤役員との意見交換会
2017.7.6~7	会員交流視察研修
2017.7.7	会員交流日帰り研修
2017.11.15	会員交流研修会「運動会」
2017.12.4~5	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2017.12.12~14	青年部・女性部・フレッシュミズ三組織合同視察研修
2018.1.29~30	第22回JA北海道女性協フレッシュミズ部会北海道交流集会
2018.2.16	第14回通常総代会
2018.3.29~30	役員研修
2018.6.11	JA常勤役員との意見交換会
2018.6.14	会員交流日帰り研修
2018.7.3~4	会員交流視察研修
2018.11.15	会員交流研修会「運動会」
2018.11.27	JAきたみらい人づくり審議会
2018.12.4~5	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2018.12.11~13	青年部・女性部・フレッシュミズ三組織合同視察研修
2019.1.31~2.1	第23回JA北海道女性協フレッシュミズ部会北海道交流集会
2019.2.14	第15回通常総代会
2019.3.28~29	役員研修
2019.7.2~3	会員交流視察研修
2019.7.18	会員交流日帰り研修
2019.11.14	会員交流研修会「運動会」
2019.11.25~27	国内農業視察研修
2019.12.4~5	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2019.12.10~12	青年部・女性部・フレッシュミズ三組織合同視察研修
2020.2.18	第16回通常総代会
2021.1.19	女性部・フレッシュミズ合同役員研修会
2021.2	第17回通常総代会（書面議決）
2021.11.30	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2022.2	第18回通常総代会（書面議決）
2022.5.27	本部役員研修
2022.7.1、7.6	会員交流日帰り研修
2022.11.28	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2022.12.13~15	三組織合同視察研修

「自分らしく活躍できる
活動を目指して」

JAきたみらいフレッシュミズ
 会長 有馬 芳枝

JAきたみらいが設立20周年の記念すべき節目を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。また日頃より本フレッシュミズ活動へのご指導、ご支援をいただき深く感謝申し上げます。

JAきたみらい設立より1年ほど後、8支部219名で活動をスタートさせたフレッシュミズですが、会員の減少などを理由に統合が進み、現在は3支部46名で活動を行っております。さらに令和6年度には支部制を廃止し、活動の一本化を予定しております。会員数の減少は寂しいことではありますが、減少の理由は決してマイナスなことばかりではなく、個がより尊重される時代への移り変わり、生活の多様化、いわゆる「農家の嫁」をとりまく状況が改善されてきたこともあると考えられます。今まで活動されてきた諸先輩方に感謝しつつ、これからもフレッシュミズ活動が会員の仲間づくり、情報交換、リフレッシュなどの場として存続し、より充実した活動ができるよう試行錯誤を続けてまいります。

最後になりましたが、これからもフレッシュミズ世代がより自分らしく活躍できる時代になるよう変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、JAきたみらいの益々の飛躍とご発展をお祈り申し上げます。



会長 有馬 芳枝



副会長 牧野 美穂



副会長 萩原 知香

役員一覧

役職	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名
会長	上	穴田優子	留	坂下あゆみ	北	西島由華	北端	米森絵里香	置	松崎久美	西	大橋加奈子
副会長	置	安斉千春	置	渡邊美和	上	大丸美喜子	西	水野美香	西	坂下晴香	訓	山川由美子
理事	訓	中西智子	北	米森こず恵	置	森脇由記	置	小林由紀子	上	川畑美由紀	上	吉田このみ
	温	山上志和	温	児玉香織	温	大原美雪	西	坂下晴香	置	片桐志穂	西	伊藤里美
	留	坂下あゆみ	留	庄司明美	留	橘 美咲	置	松崎久美	訓	山川由美子	訓	大澤由美子
	置	渡邊美和	置	森脇由記	置	小林由紀子	訓	南 香代	上	吉田このみ	北端	仲山美知
	訓	藤森 彩	訓	佐藤亜弓	訓	安斉由紀子						
	北	米森こず恵	相	小野剛美	上	長部 舞						
監事	端	間村絵美	北	西島由華	北	米森絵里香						
	相	森谷美生	上	大丸美喜子	相	水野美香	上	川畑美由紀	西	大橋加奈子	上	草場久美子
会員数	上	上野さち子	端	丸本有香	端	五十嵐里香	北端	井上真子	北端	佐藤亜希子	置	篠原亜美
	147名		135名		136名		125名		127名		112名	

役職	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名
会長	東	仲山美知	南	森 梓	東	梶浦 唯	西	藤田紗苗	南	有馬芳枝
副会長	西	伊藤里美	西	山本理恵	南	中川美恵	南	林 みお	西	牧野美穂
理事	置	篠原亜美	東	安斉里実	西	福田由佳理	東	斉藤未来	東	萩原知香
	置	小木佳子	南	中川美恵	西	藤田紗苗	南	有馬芳枝	東	刈谷鮎美
	訓	森 梓								
	監事	東	安斉里実	西	福田由佳理	南	林 みお	西	牧野美穂	南
会員数	西	山本理恵	東	梶浦 唯	東	斉藤未来	東	萩原知香	西	萩原結香
	93名		79名		65名		60名		46名	

平成25年度

恒例行事となり、5回目を迎えた「8支部合同活動会員研修会」では、運動会と懇親会を実施。半数近い参加率となり、盛會に終えることができた。さらに初めて「視察研修」を実施。1泊研修であったため、過去の合同活動とは違った雰囲気での交流を深めることが出来た。これを機に8支部全体での一体感をより強める兆しが見えた事業となった。



視察研修（道新総合印刷本社 フムフム館にて）

平成26年度

フレッシュミズとして初めて2泊3日の「国内農業視察研修」を実施。静岡県のJAあいら伊豆や神奈川県横浜市中央卸売市場などを視察。新たな試みからさらに多くの女性農業者にフレッシュミズ活動の興味を持ってもらうため、未加入者への加入促進活動にも積極的に取り組んだ。フレッシュミズ設立10周年記念事業として、JAきたみらい青年部・女性部との合同で記念誌の発行や記念式典を開催した。



相鉄ローゼン鎌倉深沢店で各パイヤーからの説明を受ける

平成27年度

平成23年以降毎年実施されている「JA常勤役員との意見交換会」を開催した。農協事業やフレッシュミズを始めとした組織活動をより良くするために、現状の問題点や今後の課題、要望などについて活発に話し合った。フレッシュミズへの加入啓蒙や各種生産組織への活動に参加しやすい環境づくり等フレッシュミズならではの視点から意見や要望を述べた。



JA常勤役員と意見交換の様子

平成28年度

フレッシュミズ初の試みとして8支部合同の「日帰り研修」を実施。東藻琴村（現・大空町）の乳酪館や小清水町のほがじゃ小清水北陽工場を視察。様々な経営形態や家庭環境がある中でもより多くの会員が参加出来るように企画した。例年実施している学習会では、グループディスカッション方式を取り入れたことで、会員同士で悩みや農業への思いを共有する機会となった。



乳酪館にてバター作りを体験

平成29年度

毎年恒例となっている「会員交流視察研修」を実施した。遠軽町では新規就農した後、農家民宿や農家レストラン等農業を基盤に様々な事業を展開している「えづらファーム」と新潟県を本社に構えた米菓の製造企業「岩塚製菓」の千歳工場を視察した。また、JA食農教育活動や女性部支部活動への参加等、青年部や女性部、地域住民との繋がりを深める活動も実施することが出来た。



会員交流視察研修（えづらファームにて）

平成30年度

昨年に続き、会員交流事業を積極的に行う中、役員で意見を出し合い、毎年新たなレクリエーションを取り入れている「運動会・懇親会」を実施。玉入れや借り物競争など考案した7種目を5チームに分かれて競技した。終了後には会員に実施したアンケートを基に、本部役員で今後の組織活動に活かすための反省会を行った。



運動会で競い合い交流を深める会員

令和1年度

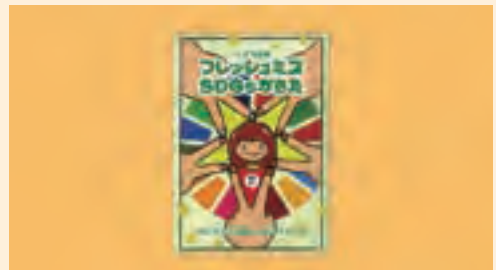
平成26年以来、2回目の「国内農業視察研修」を実施。群馬県の味の素冷凍食品関東工場ではきたみらい産玉ねぎを使用した商品の説明を受け、工場内を見学。また、東京都の豊洲市場ではきたみらい産の農産物の流通や品質評価について意見交換を行った。その他、1泊2日の「会員交流視察研修」と「日帰り研修」も実施する等積極的な会員交流事業を行った。



国内農業視察研修（味の素冷凍食品株式会社にて）

令和2年度

新型コロナウイルス感染症の全国的な発生・拡大により、フレッシュミズ活動も自粛を余儀なくされたが、JA全国女性協議会で制作されたSDGsとフレッシュミズのPR資材「JA女性組織フレッシュミズSDGsかるた」の購入活動が行われた。かるたは、食事の大切さや農業の役割などを子どもたちに伝える食農教育活動の一環としてフレッシュミズ会員がSDGsを分かりやすく伝えることを目的に制作され、幅広い年代で楽しみながらJA女性組織の取組みをPRした。



JA女性組織フレッシュミズSDGsかるた

令和3年度

コロナ禍での情勢を注視しながら、徐々にフレッシュミズ活動を再開した。コロナ禍が落ち着いてきた11月にオホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会にWebで参加し、12月には各支部で冬期研修会を実施した。西支部はポーセラーツ作り、南支部はアロマクリーム作り、東支部ではパン作りに取り組んだ。少ない活動回数の中でも会員交流を行うことが出来て有意義な活動になった。



東支部冬期研修会にてパン作りに取り組む会員

令和4年度

コロナ禍も終息に向かい、昨年実施することが出来なかった6月の各支部夏期研修会も行うことが出来た。西支部はパーソナルカラー診断、南支部は体の歪み改善や疲れを軽減するヨガ講座、東支部は地元産小麦「春よ恋」を使用したパン作りに取り組んだ。



西支部夏期研修会（パーソナルカラー診断）

きたみらい玉葱振興会

設立 平成15年3月18日
 会員数 423名
 会長 加藤 英樹

主なできごと

- 2013/2/21 第11回きたみらい玉葱振興会通常総会
- 2013/7/29~8/1 府県販売推進(三役~大阪、名古屋、東京協議会開催)
- 2013/11/13~14 道内視察研修(富良野岩見沢玉葱選果場・札幌中央市場・ホクレン本所 会員29名参加)
- 2013/12/2~6 A班・B班による府県販売推進(16名参加)
- 2014/1/16 きたみらい玉葱振興会市場協議会(市場30社、会員208名参加)
- 2014/2/24 第12回きたみらい玉葱振興会通常総会
- 2014/7/17 生産者全体交流会(記念公演:東京青果 河田社長、197名参加)
- 2014/7/29~8/1 府県販売推進(三役~九州、大阪、名古屋、東京協議会開催)
- 2014/11/12~13 道内視察研修(富良野・岩見沢玉葱選果場・札幌中央市場・ホクレン本所 会員31名参加)
- 2014/12/1~5 A班・B班による府県販売推進(16名参加)
- 2015/1/15 臨時役員会議(加工業務用野菜生産基盤強化推進事業に係る取り進めについて)
- 2015/1/15 きたみらい玉葱振興会市場協議会(市場18社、会員、JA職員など133名参加)
- 2015/2/17 第13回きたみらい玉葱振興会通常総会
- 2015/4/10 ネギハモグリバエの対策に係る講習会(会場:調子府、相内、センター)
- 2015/6/17 ネギハモグリ対策に関する協議(三役)
- 2015/6/20 ネギハモグリバエ一斉防除
- 2015/7/8 生産者全体交流会(市場3社、会員、JA職員など192名参加)
- 2015/7/28~29 府県販売推進(三役~関東、名古屋、関西中四国協議会開催)
- 2015/11/11~12 道内視察研修(富良野・岩見沢玉葱選果場・札幌中央市場・ホクレン本所 会員32名参加)
- 2015/11/30~12/4 A班・B班による府県販売推進(15名参加)
- 2016/1/15 きたみらい玉葱振興会市場協議会(市場など21社、会員136名参加)
- 2016/2/26 第14回きたみらい玉葱振興会通常総会
- 2016/4/7 ネギハモグリバエの対策に係る講習会(会場:調子府、相内、センター)
- 2016/7/4 生産者全体交流会(市場4社、会員、JA職員など198名参加)
- 2016/7/26~29 府県販売推進(三役~九州、関西中四国、名古屋、関東協議会開催)
- 2016/11/9~10 道内視察研修(富良野・岩見沢玉葱選果場・札幌中央市場・ホクレン本所 会員32名参加)
- 2016/11/28~12/2 A班・B班による府県販売推進(14名参加)
- 2017/1/18 きたみらい玉葱振興会市場協議会(市場など24社、会員135名参加)
- 2017/2/23 第15回きたみらい玉葱振興会通常総会
- 2017/6/3 相内新玉ねぎ選果場 安全祈願祭
- 2017/6/5~6 超選出し出荷市場(仙台、東京)着検確認(三役にて実施)
- 2017/7/6 生産者全体交流会(市場12社、会員、JA職員など205名参加)
- 2017/7/27~29 府県販売推進(三役~名古屋、関東、東北協議会開催)
- 2017/11/15~16 道内視察研修(富良野・岩見沢玉葱選果場・札幌中央市場・ホクレン本所 会員30名参加)
- 2017/11/27~12/1 A班・B班による府県販売推進(14名参加)
- 2018/1/17 きたみらい玉葱振興会市場協議会(市場など26社、会員139名参加)
- 2018/2/21 第16回きたみらい玉葱振興会通常総会
- 2018/4/5 SN-1栽培講習会(会場:センター事務所・相内地区事務所)
- 2018/5/18 超選出し選果確認及び品質確認(調子府選果場)
- 2018/6/21~22 道内産地視察(役員・富良野・岩見沢園圃、ホクレン本所)
- 2018/7/5 生産者全体交流会(市場13社、会員、JA職員など190名参加)
- 2018/7/12 SN-1現地栽培講習会(場所:技術センター、午前・午後2回)
- 2018/7/30~8/1 府県販売推進(三役~九州、関西中四国、関東協議会開催)
- 2018/11/12~16 海外(台湾)視察研修(高雄~西嶼~台北 会員25名参加)
- 2018/11/26~30 A班・B班による府県販売推進(13名参加)
- 2019/1/16 きたみらい玉葱振興会市場協議会(市場など27社、会員128名参加)
- 2019/2/20 第17回きたみらい玉葱振興会通常総会
- 2019/4/1~2 SN-1及びSN-3栽培講習会(センター・調子府・相内にて実施 出席者132名)
- 2019/6/19~20 道内産地視察(役員・富良野・岩見沢園圃、ホクレン本所、札幌みらい中央青果)
- 2019/6/27 相内玉ねぎ出荷施設 修築式(出席者336名 内振興会会員 67名 市場関係者109社)
- 2019/7/10 SN-1及びSN-3栽培講習会(出席者116名)
- 2019/7/24 JAタッパー施設整備検討委員会
- 2019/7/29~31 府県販売推進(三役~九州、関西中四国、中京、関東協議会開催)
- 2019/10/31 常勤役員との意見交換会(出席者 三役)
- 2019/11/13~14 道内視察研修(富良野・岩見沢玉葱選果場・札幌中央市場・ホクレン本所 会員29名参加)
- 2019/11/18 JAタッパー施設整備検討委員会
- 2019/11/25~29 A班・B班による府県販売推進(16名参加)
- 2020/1/15 きたみらい玉葱振興会市場協議会(市場など28社、会員183名参加)
- 2020/1/22~23 SN-1、SN-3栽培講習会(センター・調子府・相内にて実施 出席者166名)
- 2020/2/21 第18回きたみらい玉葱振興会通常総会
- 2020/7/10 SN-1及びSN-3栽培講習会(出席者163名)
- 2020/7/28 JAきたみらい玉葱販売対策会議(三役~市場6社、ホクレン各支店7名)
- 2020/10/13 「第50回日本農業賞」北海道審査(きたみらい玉葱振興会) 会長出席
- 2021/1/9 「第50回日本農業賞」全国審査(きたみらい玉葱振興会) 出席者 加藤会長、今野副会長、北川副会長、森部青年部長、小野元会長、土山元会長、飯田前会長
- 2021/1/21 市場協議会(オンライン開催)(役員~市場13社)
- 2021/1/29 「第50回日本農業賞」大賞受賞 決定
- 2021/2/17 第19回きたみらい玉葱振興会通常総会
- 2021/3/6 第50回日本農業賞「大賞」受賞 表彰式(オンライン形式)
- 2021/4/6~7 出席者 加藤会長、今野副会長、北川副会長、小野元会長、土山元会長、飯田前会長
- 2021/6/2 SN-3栽培講習会(出席者136名)
- 2021/8/31 JA玉葱茎葉処理施設 修築式(三役出席)
- 2021/10/6 令和3年度 農林水産部中央審査委員会園芸分科現地調査(オンライン形式)
- 2021/11/10 出席者 加藤会長、今野副会長、北川副会長、森部青年部長、小野元会長、土山元会長、飯田前会長
- 2021/11/10 第60回農林水産部「天皇杯」受賞 決定
- 2021/11/21~26 道内主産地選果場視察(役員・富良野・岩見沢選果場)
- 2022/2/22 府県販売推進
- 2022/4/5~6 (三役~関東、中京、関西、九州協議会開催、農林水産部式典、武部副大臣受賞報告、ビエトロ工場視察)
- 2022/6/24 第20回きたみらい玉葱振興会通常総会
- 2022/6/29~7/2 SN-3栽培講習会(出席者113名)
- 2022/7/6 降雹被害判定基準確認及び取扱要領説明会
- 2022/7/7 府県販売推進(三役~九州、関西中四国、中部、関東、東北協議会開催)
- 2022/7/8 きたみらい玉葱振興会産習協議会(市場6社、JA常勤役員、振興会役員)
- 2022/11/16 SN-3栽培講習会(出席者120名)
- 2022/11/28~12/2 道内主産地選果場視察(役員・富良野・岩見沢選果場)
- 2023/1/16 A班・B班による府県販売推進(14名参加)
- きたみらい玉葱振興会市場協議会 4会場分散にて開催(市場11社、会員221名参加)

「周年供給実現を目指して」

きたみらい玉葱振興会
 会長 加藤 英樹

きたみらい農業協同組合が合併20周年を迎えましたことに、心よりお祝い申し上げます。

また、きたみらい玉葱振興会においても20周年を迎えることができ、これもひとえにJAきたみらい並びに関係機関各位皆様のご支援の賜物と会員一同深く感謝申し上げます。

玉ねぎを取り巻く環境は2018年のTPP締結により貿易の自由化による日本農業への大きな影響が心配されてきました。安価な海外の農産物が導入される事で日本の農業が更なる打撃を受けることの無いよう注視していかねばなりません。

今現在、生食向け販売を中心とし、加工販売などにより需給調整をし、中国を中心とした固定的な輸入品も含めながら、又物価高騰の時代となってきた中、適正な価格形成を図って参りたいと考えます。

この20年で生産戸数が減少する中、一戸当たりの栽培面積は増加傾向にあります。JA施設に目を向けますと選果場集約による令和元年の玉葱選果場の新設、令和3年のJAタッパー新設とJAきたみらいと共にきたみらい玉ねぎも大きな転換期を迎えてきました。近年、集中豪雨や降雹など異常気象による減収、廃耕など我々生産者にとっても心配の絶えない時代になってきています。消費地に対し品質はもとより、安定出荷を第一に考え、更には目標であります周年供給を実現出来る様、生産者一人ひとりが今一度きたみらい玉ねぎの産地とブランドを守るべく見つめ直していただきたいと思います。

最後になりますが、きたみらい農業協同組合の益々の発展と組織全体が更なる高みを目指す事を期待し、20周年のお祝いの言葉とさせていただきます。



会 長 加藤 英樹 副会長 雅楽川 英行 副会長 北川 裕一

役員一覧

役 職	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
会 長	訓	小野洋一	訓	小野洋一	訓	小野洋一	端	土山清隆	端	土山清隆	訓	飯田裕之
副会長	北	宮下尚樹	北	宮下尚樹	北	宮下尚樹	訓	飯田裕之	訓	飯田裕之	北	加藤英樹
理 事	端	古屋和徳	端	古屋和徳	端	古屋和徳	北	加藤英樹	北	加藤英樹	端	富樫 悟
	温	森部雅博	温	大関裕之	温	大関裕之	温	大関裕之	温	大関裕之	西	伊藤照彦
	留	澤山一之	留	澤山一之	留	澤山一之	留	飯田和浩	留	飯田和浩	西	大関裕之
	置	井上 一	置	井上 一	置	井上 一	置	井上 一	置	井上 一	西	飯田和浩
	訓	林 幸雄	訓	福田英治	訓	福田英治	訓	今野雅祐	訓	今野雅祐	置	井上 一
	訓	渡辺一彦	訓	山本洋昭	訓	山本洋昭	訓	林 一樹	訓	林 一樹	訓	今野雅祐
	相	岩崎隆幸	相	伊藤照彦	相	伊藤照彦	相	伊藤照彦	相	伊藤照彦	訓	雅楽川英行
	上	吉田信夫	上	穴田惣一	上	穴田惣一	上	穴田惣一	上	穴田惣一	上	穴田惣一
	北	加藤英樹	北	加藤英樹	北	加藤英樹	北	西島 剛	北	西島 剛	北	西島 剛
	端	土山清隆	端	土山清隆	端	土山清隆	端	富樫 悟	端	富樫 悟	端	北川裕一
	端	竹田幹雄	端	竹田幹雄	端	竹田幹雄	端	樫尾英司	端	樫尾英司	端	山内秀之
	留	渡辺琢磨	温	北村哲治	温	北村哲治	置	森谷弘二	置	森谷弘二	南	森谷弘二
監 事	相	北町 靖	上	田井和重	上	田井和重	相	眞田 肇	相	眞田 肇	西	眞田 肇
	青年部	北	杉山幸治	訓	岩本直樹	訓	岩本直樹	北	米森淳史	北	米森淳史	南
	訓	岩本直樹	上	木村憲幸	上	木村憲幸	訓	林 拓己	訓	林 拓己	西	森部啓太
	端	井上貴博	北	米森淳史	北	米森淳史	上	羽鳥貴之	上	羽鳥貴之	北見	井上 満
会員数	497名		491名		501名		496名		482名		465名	

役 職	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
会 長	訓	飯田裕之	北	加藤英樹	北	加藤英樹	北	加藤英樹	北	加藤英樹
副会長	北	加藤英樹	訓	今野雅祐	訓	今野雅祐	訓	雅楽川英行	訓	雅楽川英行
理 事	端	富樫 悟	端	北川裕一	端	北川裕一	端	北川裕一	端	北川裕一
	西	伊藤照彦	西	大邑和治	西	大邑和治	西	飯田和浩	西	飯田和浩
	西	大関裕之	西	飯田和浩	西	飯田和浩	西	眞田 肇	西	眞田 肇
	西	飯田和浩	西	眞田 肇	西	眞田 肇	西	森谷淳治	西	森谷淳治
	置	井上 一	置	森谷弘二	置	森谷弘二	置	森谷弘二	置	森谷弘二
	訓	今野雅祐	訓	雅楽川英行	訓	雅楽川英行	訓	前田一真	訓	前田一真
	訓	雅楽川英行	訓	前田一真	訓	前田一真	訓	所 厚志	訓	所 厚志
	上	穴田惣一	上	西内 光	上	西内 光	上	西内 光	上	西内 光
	北	西島 剛	北	西島 剛	北	西島 剛	北	西島 剛	北	西島 剛
	端	北川裕一	端	山内秀之	端	山内秀之	端	山内秀之	端	山内秀之
	端	山内 秀之	端	桜井慎一	端	桜井慎一	端	桜井慎一	端	桜井慎一
	監 事	南	森谷弘二	置	中澤光太郎	置	中澤光太郎	置	坂下修一	置
	西	眞田 肇	上	矢萩大寛	上	矢萩大寛	上	矢萩大寛	上	矢萩大寛
	青年部	南	林 拓己	西	森部啓太	西	森部啓太	北	井上竜介	北
	西	森部啓太	訓	杉山正樹	訓	杉山正樹	訓	中根正登	訓	中根正登
	北見	井上 満	北	井上竜介	北	井上竜介	端	今村圭一	端	今村圭一
会員数	456名		447名		436名		429名		423名	

平成25年度

定植時期の降雪や生育期間中の低温、降水量不足、また7月の記録的な早魃により反収は4,180kgと低収量となった。品質向上対策として「きたみらい玉葱振興会 生産管理基準」を作成し品質向上に努めた。

平成25年産玉ねぎ平均反収 4,180kg/10a



10周年の節目となる産消交流会

平成26年度

収穫作業と集荷の前倒しが出来たことによる早期選果ができ、初となる盆前販売が実現し、市場などもかねてより待ち望んでいたことから取り組みに対する評価も高かった。

平成26年産玉ねぎ平均反収 5,520kg/10a



役員による圃場巡回

平成27年度

過去最大級の取扱量となったが、過去最速の選果・出荷となり、消費地からの評価は非常に高く、以降不安定な府県産からの早期切り替えが求められるようになった。

平成27年産玉ねぎ平均反収 6,158kg/10a



府県販売推進の意見交換会の様子

平成28年度

8月の収穫を目前とした中で3度に亘る台風上陸により常呂川水系の河川の氾濫により流域では未曾有の水害となった。反収は過去最大級の6,740kgとなり、JA取扱量も合併以来最高となった。この年に北見地区共計による5月・6月販売「超遅出し出荷」の試験販売が行われた。

平成28年産玉ねぎ平均反収 6,740kg/10a



府県販売推進の求評調査

平成29年度

加工業務関係は純国産野菜を原料とする商品が発売されるなど、国産回帰の動向もあり供給量が拡大し始めた。内需以外でも全道共計による台湾や韓国への輸出や、極東ロシアへの加工Sの輸出も開始され販路拡大や安定出荷確立へ向けた推進が行われた。

平成29年産玉ねぎ平均反収 6,040kg/10a



府県販売推進（福岡ソノリク岡山）

平成30年度

6月には低温・日照不足、さらには断続的な降雨などにより軟腐が多発、7月には一転して高温早魃で推移し圃場間格差の生じた年産となった。11月には台湾の消費・物流情勢を確認する視察研修を実施。

平成30年産玉ねぎ平均反収 5,825kg/10a



海外視察研修（台湾）

令和1年度

温根湯・留辺蘂・青果物センターの玉葱選果場を廃止し、新たに国内最大規模の「相内選果場」を建設し、7施設から5施設に集約された。年明け2月から新型コロナウイルスの拡大により消費者の生活形態に大きな変化が見られた。

令和元年産玉ねぎ平均反収 6,000kg/10a



市場協議会

令和2年度

過去最大級の取扱量となり、全道共計の一環である輸出は台湾を中心に全道で4万トンを超える出荷を行った。新型コロナウイルスの影響により振興会事業活動が制限されほぼ活動出来ない状況となった。「第50回日本農業賞」大賞受賞

令和2年産玉ねぎ平均反収 6,398kg/10a



第50回日本農業賞 大賞受賞

令和3年度

6月下旬からの早魃により平成25年産に次ぐ不作の年産となった。全道的な不作により供給量が需要量に追い付かず相場は高騰した。依然として新型コロナウイルスの収束は見込めない状況が続いていた。また、新施設としてJA玉葱茎葉処理施設が稼働開始。「第60回農林水産祭」最高賞天皇杯受賞

令和3年産玉ねぎ平均反収 4,862kg/10a



第60回農林水産祭 最高賞天皇杯受賞

令和4年度

6月・7月に広域に亘る大規模な降雹及び大雨が発生し、未曾有の被害となった。被害面積は玉葱作付面積の40%を超える1,999.27ha、うち489.15haが廃耕を余儀なくされた。

令和4年産玉ねぎ平均反収 6,519kg/10a



市場協議会

きたみらい玉ねぎ振興会青年部

設立 平成15年4月11日
部員数 138名
部長 井上 竜介

主なできごと

2013.3.18	第11回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
2013.7.11	作況調査 及び 全体交流会・共励会
2013.11.25	管内選果場視察研修 (美幌広域・常呂・えんゆう・青果物センター)
2013.12.10	学習会 (気象条件と収量の関係性など3項目)
2014.1.21	府県視察研修 (大阪、四国、九州など4日間)
2014.3.18	第12回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
同日	きたみらい玉ねぎ振興会青年部設立10周年記念式典
2014.7.8	作況調査 及び 全体交流会・共励会
2014.11.20	道内選果場視察研修 (富良野・えんゆう選果場など2日間)
2014.12.4	学習会 (ネギハモグリバエの概要など3項目)
2015.1.19	府県視察研修 (東北、関東など4日間)
2015.3.17	第13回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
2015.7.10	作況調査 及び 全体交流会・共励会
2015.11.20	管内選果場視察研修 (美幌広域・常呂・えんゆう)
2015.12.10	学習会 (ネギハモグリバエ対策など3項目)
2015.12.15	玉ねぎ振興会との意見交換会 (将来のきたみらい玉葱について)
2016.3.17	第14回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
2016.7.8	作況調査 及び 全体交流会・共励会
2016.11.21	道内選果場視察研修 (富良野・岩見沢選果場など2日間)
2016.12.13	学習会 (現品審査の仕組みなど3項目)
2017.3.17	第15回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
2017.6.29	作況調査 及び 全体交流会・共励会
2017.11.22	管内選果場視察研修 (美幌広域・常呂・端野)
2017.12.5	府県視察研修 (九州、関西など4日間)
2017.12.18	玉ねぎ振興会との意見交換会 (SN-1の作付課題など2項目)
2018.1.23	学習会 (GAPなど4項目)
2018.3.14	第16回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
2018.6.25	道内作況視察研修 (富良野・岩見沢選果場など2日間)
2018.7.6	作況調査 及び 全体交流会・共励会
2018.12.3	府県視察研修 (関東、北陸など4日間)
2019.1.23	学習会 (緑肥の特性など4項目)
2019.3.15	第17回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
2019.7.5	作況調査 及び 全体交流会・共励会
2019.8.2	学習会 (精算内容について)
2019.11.21	管内選果場視察研修 (美幌広域・常呂・えんゆう)
2019.12.3	府県視察研修 (四国、九州など4日間)
2019.12.16	玉ねぎ振興会との意見交換会 (労働不足から考える今後の農業形態など2項目)
2020.1.20	学習会 (SNシリーズの腐敗事故など4項目)
2020.4.2	第18回通常総会
2020.8.7	学習会 (精算内容について)
2021.3.16	第19回通常総会
2021.7.8	作況調査 (Web形式)
2021.11.24	道内選果場視察研修 (富良野・岩見沢選果場など日帰り)
2021.12.8	道内視察研修 (釧路港ほくれん丸 日帰り)
2022.1.21	学習会 (精算内容・土づくりなど3項目 Web形式5会場)
2022.3.17	第20回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
2022.7.8	作況調査 及び 共励会
2022.8.5	学習会 (精算内容について)
2022.12.5	府県視察研修 (関西、名古屋、関東など4日間)
2023.1.23	学習会 (後作緑肥・堆肥など4項目) 及び全体交流会

先人達の想いを未来へ繋ぐ

きたみらい玉ねぎ振興会青年部
部長 井上 竜介

この度、きたみらい農業協同組合の合併20周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

また、当青年部におきましても20周年の節目を迎えることができ、これもひとえに、きたみらい農業協同組合・きたみらい玉葱振興会及び関係者各位皆様のご支援のお陰だと心より感謝と敬意を申し上げます。

私達が現在もこの恵まれた環境下で玉葱生産が続けられるのも、玉葱生産技術はもとより、一元出荷、共計共販など色々な先人たちの取り組みがあったこそであり、深く感謝申し上げます。

一方で、農業を取り巻く環境は国際情勢をはじめ、生産資材の高騰、高齢化が進む中での生産者の減少など依然として先行きが不透明な状況です。

またここ近年での玉葱栽培においては、極端な高温・早魃、毎年のように集中豪雨や降雪などの異常気象が続いており、品質低下・減収・廃耕など天候などに左右され高品質・安定生産の難しさを痛感させられています。それに伴い、生産者としても消費地にご迷惑をかけている結果となっていることから今まで以上に諸対策を講じる必要があると強く思うところです。

そのような中で当青年部では、多種にわたる試験や作況調査・交流会による技術情報交換、学習会等での品質向上・安定生産の維持その他栽培に関わる事などをメインに取り組みでまいりました。毎年12月には消費地へ出向き、市場の方と意見交換会を実施し、消費動向、また消費者が求めていることなど、直接耳にすることでまた新たな課題ができるなど、多岐にわたる学びをまいりました。

今後におきましても、私達青年部も諸先輩方が築き上げてきた「きたみらい玉葱」というブランドと産地を守る為、将来を担う多くの部員・仲間の交流、活動を通じ更なる技術と知識を高めあい、高品質・高収量な玉葱を作っていくため努力をして参りたいと思います。

最後にきたみらい農業協同組合並びにきたみらい玉葱振興会、各関係機関の皆様へ感謝申し上げますとともに、一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。



部長 井上 竜介



副部長 今村 圭一



副部長 中根 正登

役員一覧

役職	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名
部長	北	杉山幸治	訓	岩本直樹	訓	岩本直樹	北	米森淳史	北	米森淳史	南	林 拓己
副部長	訓	岩本直樹	上	木村憲幸	上	木村憲幸	南	林 拓己	南	林 拓己	西	森部啓太
	端	井上貴博	北	米森淳史	北	米森淳史	上	羽鳥貴之	上	羽鳥貴之	北	井上 満
理事	温	大原直記	西	大原直記	西	大原直記	西	岩崎智浩	西	岩崎智浩	西	福田政行
	留	橘 秀俊	置	日下 巧	置	日下 巧	西	林 尚哉	西	林 尚哉	南	杉山正樹
	留	杉本勝美	訓	林 拓己	訓	林 拓己	南	須河岐文	南	須河岐文	上	大丸裕之
	置	須藤潤一	上	羽鳥貴之	上	羽鳥貴之	上	大丸裕之	上	大丸裕之	上	吉田慎司
	置	岡田 章	北	田中茂樹	北	田中茂樹	北	井上 満	北	井上 満	北	刈谷亮祐
	相	北村誠治	端	菅原有矢	端	菅原有矢	端	西川哲平	端	西川哲平	端	松下 誠
	相	菅野弘幸	端	西川哲平	端	西川哲平	端	松下 誠	端	松下 誠	端	佐藤剛士
	上	木村憲幸										
	上	矢萩大寛										
	北	田中茂樹										
	端	菅原有矢										
監事	温	山下真司	西	杉本勝美	西	杉本勝美	西	牧野丈太郎	西	牧野丈太郎	西	林 尚哉
	訓	前田一真	置	中澤光太郎	置	中澤光太郎	南	安西良樹	南	安西良樹	南	須河岐文
部員数	193名		187名		185名		168名		159名		163名	
役職	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度			
	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名		
部長	南	林 拓己	西	森部啓太	西	森部啓太	北	井上竜介	北	井上竜介		
副部長	西	森部啓太	南	杉山正樹	南	杉山正樹	南	中根正登	南	中根正登		
	北	井上 満	北	井上竜介	北	井上竜介	端	今村圭一	端	今村圭一		
理事	西	福田政行	西	森谷利隆	西	森谷利隆	西	森谷利隆	西	森谷利隆		
	南	杉山正樹	南	細川恒平	南	細川恒平	西	加藤達也	西	加藤達也		
	上	大丸裕之	上	宮本裕一	上	宮本裕一	南	細川恒平	南	細川恒平		
	上	吉田慎司	上	武田吉弘	上	武田吉弘	上	宮本裕一	上	宮本裕一		
	北	刈谷亮祐	北	刈谷亮祐	北	刈谷亮祐	上	伊藤博樹	上	山本晃久		
	端	松下 誠	端	佐藤剛士	端	佐藤剛士	北	岡崎真士	北	岡崎真士		
	端	佐藤剛士	端	今村圭一	端	今村圭一	端	沼崎雅年	端	沼崎雅年		
監事	西	林 尚哉	西	星加陽平	西	星加陽平	西	森谷崇弘	西	森谷崇弘		
	南	須河岐文	南	北野祐作	南	北野祐作	端	今村圭一	端	今村圭一		
部員数	163名		154名		148名		146名		138名			

平成25年度

4月下旬の積雪による定植遅れ、その後の低温・早魃により非常に厳しい年産となったことから、近隣産地の生産・品質状況の確認と当JAとの比較を目的とした管内選果場視察を実施した。また、「気象条件と収量」をテーマに学習会を行い、今後の対策について学んだ。



選果場巡回

平成26年度

府県視察として、消費地市場（仙台、東京）との意見交換会、京成青果（加工業者）、サンコープランニング（パッケージセンター）へ来訪。試験については「有機質肥料による皮剥け低減試験」と「石灰質肥料による皮剥け低減試験」と2つの試験を実施し、両試験ともに一定の効果が見られた。



青年部試験調査

平成27年度

学習会では「玉葱販売情勢」「玉葱の流通と全道共販の取り組み」のほか、普及センターを講師として「ネギハモグリバエへの対策」について学んだ。玉葱生産における品質の安定化ついてや、将来的に加工用途が増加することを見込んだうえでの、生産現場・産地でのコストダウン方法について玉葱振興会役員と意見交換会を行った。



共励会上位入賞者 記念品

平成28年度

試験圃場の作況調査を行い実施状況を確認。全体交流会、共励会を実施し、「品質・収量」を算定基礎として、上位者の表彰を行い今後の玉葱栽培に向けた糧とした。道内視察として富良野・岩見沢選果場の生産・品質状況の確認をしたほか、販売・流通に係る知識の向上を目的とし、札幌中央市場・札幌野菜センターを訪問した。



道内視察研修

平成29年度

府県視察研修では九州市場、関西市場との意見交換会実施。両市場とも活発な意見が飛び交い、佐賀、淡路、その他新興産地における現状を学んだほか道産玉葱に対する消費地側の期待や重要性を再認識した。試験活動として「オホーツク222晩期定植試験（2年目）」及び「根切り時期による品質確認試験」を実施し、北見地区玉葱振興会青年部研究会において、試験結果を発表した。



道外視察研修

平成30年度

道内作況視察研修において、富良野・岩見沢圃場の生育状況について確認と、双方の玉ねぎ青年部との意見交換を行った。「SN-1、SN-3栽培方法確立試験」では、根切りのタイミング等の栽培方法の確立を模索し、「黒シミ発症軽減試験」においてはpHが生育に与える影響や黒シミの発生要因のひとつであることが確認された。



道内作況視察

令和1年度

九州市場、関西市場への視察研修を実施し、市場でのSNシリーズの評価について意見を交わしたほか、(株)七宝では栽培方法の留意点について確認を行った。また、試験活動・学習会とともにSNシリーズの問題と課題解決について、青年部としても積極的に取り組み、更なる品質向上を目指した活動を行った。



選果場巡回

令和2年度

道内視察研修、作況調査・全体交流会、府県視察研修、学習会(1月)と多くの事業が新型コロナウイルス蔓延防止の観点から活動の制限を余儀なくされた。試験については「植付深度の違いによる品質確認試験」と「皮ムケ対策試験」の2つの試験を実施。これらの試験結果を基に更なる品質向上を目指した。



青年部試験調査

令和3年度

一部事業については昨年から引き続き新型コロナウイルス蔓延防止の観点から中止となったが、Webでの開催や実施規模の縮小など開催方法を検討し、可能な限り事業を実施。府県視察については、内容を変更し関東への輸送の大動脈である「ほくれん丸」を釧路港で視察した。



道内視察研修

令和4年度

引き続きコロナ禍での状況ではあったが、Webでの開催や実施規模の縮小を行いながら、ほぼ計画通りの事業を実施。特に府県視察や全体交流会については、数年ぶりの開催となったことから、改めて視察による意見交換や、同世代の交流を深めることの重要性を認識した。



道外視察研修